

# 第34回 通常総会 議案書



日

時

2023年3月1日(水)

12:45 開会 ~ 16:00 閉会

【受付開始】12:15 【会場】日経ホール



パルシステム生産者・消費者協議会

東京都新宿区大久保2丁目2-6 ラクアス東新宿 TEL (03)5292-8250



# パルシステム生産者・消費者協議会

## 第34回 通常総会

### 《次第》

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 書記任命・議事録署名人選出
6. 議案審議
  - 第1号議案 2022年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件
  - 第2号議案 2023年度活動方針案並びに予算案承認の件
  - 第3号議案 役員改選の件
7. 議長解任
8. 閉会の辞

---

### 《目次》

第1号議案	2022年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件	1
第2号議案	2023年度活動方針案並びに予算案承認の件	11
第3号議案	役員改選の件	13
	【資料】	14
	【会員名簿】	30

## 第1号議案

### 2022年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

#### 《2022年度の振り返り》

2022年度は、昨年引き続き新型コロナウイルス感染の影響が続き、年明けから3月にかけての「第6波」、7月から9月の「第7波」、10月からの「第8波」と断続的に続きました。1月9日から3月21日まで「まん延防止等重点措置」が発令され、総会を始め、農法研究会やブロック会議といった催事のみならず、幹事会や生産者運営委員会、消費者運営委員会のような役員参加の会合についてもオンライン開催となりました。4月以降、PCRや抗原検査による陰性確認を前提に、順次、集合開催やオンラインを併用したハイブリッド形式での活動再開を進めました。

一方、2月24日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻をきっかけとしたエネルギー、穀物価格の高騰に加え、32年ぶりの円安の影響により農業資材や飼料の高騰、暮らしに関わる物価の高騰が急激に進みました。生・消の危機的な状況に対して、部会や役員間の会合の場では、これらの課題に関する情報を共有する場が数多く持たれ、課題解決に向けた模索の1年となりました。

昨年に引き続き、年度方針に掲げられている「部会活動の活性化」は、部会独自での研修会が行われた他、SNSを活用した産地リレーによる動画配信、各部会活動の場では消費者幹事との意見交換についても進められました。次年度に向けて、品目別の生産者によるつながりが深化する動きと共に、品目に限らない横断的な生産者間の連携についても進展が期待されます。

次世代リーダー研修や青年農業者交流会、女性生産者交流会は、2019年以来3年ぶりの集合開催となり（一部オンライン・ハイブリッド開催を含む）、参加者同士での交流を通じて、会員間での思いを馳せる動きが促進される場となりました。

6月には全国の農業経営体の数が2022年に97万5100となり、20年足らずで半減したことが農林水産省の発表により明らかになりました。高齢化による離農の一方で農業法人の増加が進むなど、農業の現場は大きな変革の波が押し寄せています。パルシステムの産直四原則に基づいた「交流」と「参加」を大切にしながら、会員間での結束をより強固なものとし、農と食をつないで変革期を超えていきます。

## 《重点方針と具体的施策》

### I 産直を通じた未来を創造します

#### 1. 生産者と消費者がともに生活者としてのくらしを尊重しながら、気候変動の中での安定した農畜産物の生産・供給や自然災害への対応などの課題を共有します。

(1) 青果フォーラム (10/6) はハイブリッド形式で行い、産地関係者42産地70名、パルシステム関係者66名の参加のもと開催されました。農林中金総合研究所の平澤明彦氏を講師として、「食料安全保障と持続可能な農業」をテーマに世界情勢や日本の基礎的な条件と課題、EUやスイスの事例をもとに、日本の特質と食料安全保障政策の課題が報告されました。講演後、産地の現状と今後について、村悟空の椎名氏、沃土会の倉林氏、水保・不知火ネットワークの河野氏、ジョイファーム小田原の鳥居氏より資源高騰下での対策や取り組みの報告が共有されました。

(2) 第21回女性生産者交流会 (11/10-11) は、産地関係者13産地34名、パルシステム関係者49名参加(内、1名はオンライン)のもとで開催しました。

1日目の交流会では4つのテーマについて話し合い、交流を深めました。2日目は水保・不知火ネットワーク、肥後あゆみの会の圃場や施設を巡り、肥料や農薬について、既存の資材に頼らず、地域資源を活用した生産の取り組みを学びました。



▲農業資材の製法を学ぶ参加者

#### 2. 「産直4原則」を基本に環境負荷の少ない持続可能な農業と消費の確立に向けて検討を進めます。一方で「みどりの食料システム戦略」等の学習をパルシステムと共に進め、内容の把握と会員への課題共有を行います。

(1) パルシステム連合会産直委員会と共催で実施した2022年度「みどりの食料システム戦略」学習会 (12/2) では、農林水産省担当者を講師に、みどりの食料システム戦略のKPI目標を含めた全体概要を改めて把握し、最新の情勢、みどりの食料システム新法、環境負荷低減の見える化の仕組みを学習しました。

#### 3. 会員産地・生協の未来を担う人材育成を継続します。

(1) 次世代リーダー研修を全4回企画で開催しました。今回は産地関係者21産地35名、パルシステム関係者18名が参加し、「交流から学ぶ産直、自組織の中で交流をコーディネートできるリーダー育成」を開催趣旨に座学とグループワーク、産地視察の構成で実施しました。

① 第1回 (7/13) はオンラインで開催し、パルシステム連合会産直事業本部の武藤部長より、交流の形、生産者・消費者・生協が関係性を築く重要性について、広報本部の加藤本部長より、もっといい明日へ超えてく、食に限らず時代の半歩先を自ら行動することについて、パルシステム・リレーションズの藤井氏より、パルシステム産直の課題としてブランド認知不足が挙げられ、産直の見える化、差異化により信頼につなげるることについて、それぞれ講演いただきました。その後9グループに分かれ「お互いに発信しよう！」をテーマに情報交換を行いました。

② 第2回 (8/24-25) は、JA新潟かがやきでの産地研修を行いました。有機水田や夢の谷を巡り、当時の笹神村によるゆうきの里宣言から現在に至るまで、生きものと共にする農業を実践してきたことや、交流の歴史、JA新潟かがやき・エコファームささかみ・共生食品・パルシステムによる共創の取り組み、地域のもみ殻をたい肥に活用した取り組みやBMW技術について学びました。

参加者は生協組合員向けの「ささかみサマーキャンプ」プログラム体験として、飯盒炊飯やカレー作り、星空交流会、どろんこ運動会を体験し、道の駅で全国初となる生協宅配受取りステーションを兼ねた「パルシステム新潟ときめき交流・発信ステーションふらっと」を見学するなど、2日間の行程で交流に学ぶ産直と共創の取り組みを確認しました。



▲どろんこ運動会体験の様子

- ③ 第3回(11/16)は、オンラインで開催され、第2回研修の振り返りとして、研修参加者の体験談や感想について研修欠席者を含む5つのグループで共有すると共に、各産地での事例など共有しました。その後、「次世代がどう未来を切り開くか」「産地を盛り上げ、交流への熱量を広げるリーダーの役割」などの課題提起を行い、グループワークによる議論を深めました。
- ④ 第4回(12/7-8)は、パルシステム連合会東新宿事務所にて開催しました。「次世代の交流企画をつくる」をテーマに9グループでのグループディスカッションを行い、グループ代表者から意見交換内容の報告がありました。「生協職員による年間農作業体験の交流記録を組合員広報と共に行いたい」「パルシステム職員に第2の故郷になるような産地体験を」「オンラインや現地訪問を織り交ぜた親子で出来る体験を」「交流の入り口として産地カードの情報拡充を」「バースデービーフ・ポークとして同じ誕生日の食肉を味わうまで過程を体験し、命の大切さを感じる親子体験を」「各産地でマルシェ形式による、産地間のつながりを深めたい」「生協会場で超えてくマルシェを」「ソロ交流による深い交流の実施を」などの交流企画の提案を行い、提案グループの中から、来期以降の交流提案を進めることとなりました。

(2) センター研修(旧:ほんもの実感センター研修)が東京・埼玉・山梨の会員生協にてオンライン開催され、会員産地の現状と生産物が届けられるまでの過程や、組合員対応を行う配送センターの現状を学び、会員産地の生産者と会員生協職員が交流することで職員の商品知識の獲得、意識向上につながる研修となりました。

#### 4. パルシステム 2030 ビジョンを踏まえ新たな産地ビジョンづくりを呼び掛け、生産者と消費者がともに歩む未来を創造します。

(1) 関東・中部ブロック会議(4/20)がオンライン形式により、産地関係者30産地52名、パルシステム関係者17名参加のもと開催しました。会議の場では、アップルファームさみず産地ビジョン作成の報告として、第3者の立場でビジョンづくりに携わった株式会社MISO SOUPの山岸氏、アップルファームさみずの山下代表による対談形式での報告をいただき、「後継者自身が動けるビジョンを考え意思統一を目指した」「過去を振り返り、当時の経営判断が見えた」「目指さない、やらない方向性を定めた」などの手法や、第3者が伴走者として関わる効果について報告がされました。



▲株MISO SOUPの山岸氏と参加者

(2) 山岸氏からは「ビジョン無しには組織が持続しない可能性があります。今一度ビジョンづくりを」と呼びかけがあり、その後、9グループに分かれ活発な意見交換を行いました。

## II 持続可能な農業を推進します

### 1. 先端技術を活用した農業技術、農業を巡る動向の変化、食の安全を脅かす法や制度の改廃等について注視し、情報収集や学習を行います。

(1) 第29回農法研究会(1/12)がオンライン形式により、産地関係者53産地96名、パルシステム関係者・パルシステム協力会幹事会メンバーを含め総勢200名参加のもと開催しました。「日本の食とパルシステム生産者の目指す食の方向性」と題し、農畜産物流通コンサルタント&農と食のジャーナリストの山本謙治氏からコロナ禍での業態影響・消費マインドの変化が説明され、SDGsの上位概念として、「エシカル(倫理的な、道徳的に正しい)」があり、エシカルと絡めて商品の開発や取り組みを進めることの重要性について講演いただきました。

(2) 幹事会研修(7/21-22)では、先進的な農業経営を行う(株)ジェイラップ本社(福島県須賀川市)を訪問しました。ジェイラップでは、生産と消費の架け橋となる流通システムを掲げ、独自の生産管理システムの開発と受託運用、生産者団体運営と共に、マイクロナノバブルを活用した機器など農業資材や機器の開発・生産販売を行う他、農産物の受託加工、受託生産、人材育成、ソーラーシェアリングなど再エネへの挑戦、農家の労働力低下を見据えた転作実験施設運営など幅広い取り組みを視察しました。



▲ジェイラップ伊藤代表による取り組み説明

(3) 青年農業者交流会(10/13)がハイブリッド形式により、産地関係者21産地37名、パルシステム関係者11名参加のもと開催しました。初めに、農研機構「食と農の科学館」、「遺伝資源研究センター」視察を行い、食と農の研究成果や技術展示、在来・海外種子を含む20万点超の種子保管、発芽試験、植物遺伝資源の研究状況について知見を深めました。その後、分子生物学者の河田昌東氏より「遺伝子技術と農業への影響」をテーマとして、GM・ゲノム編集・RNA農薬の問題点が挙げられ、安全審査や食品表示の必要性について講演いただきました。



▲ジーンバンクでの種子保管の様子

### 2. 新規就農者の取り組みなど労働力確保の課題について、会員産地の事例や課題を共有します。

(1) 東北・北海道ブロック会議(6/9)はオンライン形式により、産地関係者21産地51名、パルシステム関係者16名参加のもと開催しました。会議では、「みどりの食料システム戦略に先行した地域での取り組み」として、庄内産直ネットワーク(庄内協同ファーム・JA庄内たがわ)より、鴨除草と有機圃場団地化による鴨街道の取り組み、有機栽培推進に向けた新型水田除草機ウィードマンによる省力化について報告いただきました。報告後、「各産地の省力化に向けた明るい話題」をテーマにグループディスカッションが行われ、グループ毎の事例報告を共有しました。



▲スマート農業の取り組み報告

(2) 関西・以西ブロック会議 (8/31-9/1) は和歌山県和歌山市を会場にハイブリッド形式により、産地関係者 20 産地 42 名、パルシステム関係者 19 名参加のもと開催しました。会議では、紀ノ川農協での地域づくり・農福連携・GAP などの取り組み報告が行われ、「生・消の関係性を築き、農家が伝えるべきこと」「持続可能な農業経営を楽しく行うには」をテーマに 7 グループでのグループディスカッションを行い、全体で共有しました。2 日目の視察では柿・キウイ・桃園地視察と共に、新規就農者育成の取り組み、産地の現状について事例共有を行いました。



▲圃場視察を行う参加者

### 3. 2021 年度の活動成果を踏まえ、部会活動をさらに充実し、農法検討や交流の実践など具体的な行動に移していきます。

- (1) 米部会では、昨年に引き続き産地プレゼンテーションを各回で実施し、産地間での技術情報の交換、課題の共有を行いました。米部会研修 (8/1) では、千葉県いすみ市の JA いすみを会場にハイブリッド形式で実施し、有機農業推進の経緯、学校給食への有機米導入などの先進的な取り組みを学びました。
- (2) 野菜部会では、近郊産地部会へのオンラインによるオブザーバー参加を継続し、生分解性プラスチックマルチ実験栽培、大根の品種比較試験栽培、里芋のバイオスティミュラント使用、IPM 農法などに関して情報交換を行いました。
- (3) 果樹部会では、「みかん会議」「りんご会議」と共に、新たに「山梨フルーツ会議」を含む 3 会議体での活動を行いました。部会内での情報共有や意見交換の場として果樹ミーティングを通年で開催するなど、部会活動の活性化を進めました。山梨フルーツ会議主催の特別栽培実践講習会 (12/21) を長野県上田市で開催し、日本有機農業生産団体中央会による特別栽培農産物ガイドラインについての講習と共に、有機物や微生物による土づくりに長年取り組む飯塚果樹園の視察を行い、知見を深めました。
- (4) 畜産部会では、コア・フード基準に関する議論、産地プレゼンテーション、飼料情勢などについて意見交換を行いました。
- (5) 鶏卵部会では、飼料情勢の情報共有や鶏卵パックへ封入する形での産地メッセージについて意見交換を行いました。

## Ⅲ 生産者と消費者・生協役職員がともに学び、お互いの理解を広げます

### 1. 学習会や交流企画を開催し、産地の取り組みへの理解促進に努めます。また、生産者と消費者、生協関係者とのつながりを深めていきます。

(1) 産直連続講座は、2022 年 7 月から 12 月にかけてオンラインによる開催を中心に進め、普段立入ることができない畜産現場での中継を行ったほか、集合開催についても一部で再開することができました。会員産地の関係者を講師とし、会員生協と共に 26 企画を開催し、年間のべ参加人数は 700 名となりました。新型コロナウイルス感染による影響により、コロナ禍以前の開催数や参加人数の実績を下回る状況が続いていますが、産直連続講座を通じて、会員産地の現状を学び、生産者と消費者、生協関係者との交流により、つながりを深める場となりました。



▲オンラインでの鶏舎中継の様子

## 2. 交流の手法として、オンラインやリアルに加え、両方の良さを合わせたハイブリッドな開催方法の研究と実践を進めます。

(1) コロナ禍での会員産地における交流対応状況について、産地での交流会、産直連続講座等への講師派遣、オンライン交流への対応について調査を進めました。

(2) 各会議体や催事では、集合開催と共に、オンライン開催やハイブリッド開催を含む多様な開催手法により活動を研究し実践しました。青年農業者交流会では現地集合参加者による視察の後、オンライン参加者と合流し、さらに講師や消費者幹事ともオンラインで結び、多元中継による学習と交流が実現できました。



▲青年農業者交流会での交流の様子

## IV 生消協活動を発展させていきます

### 1. パルシステムの産直産地で未会員産地へ加入を呼びかけ、仲間を広げていきます。

(1) 産直事業本部と連携し、産直産地の中で未加入産地への仲間づくりの呼びかけを行い、新たに4産地が加入しました。

### 2. 会員産地に生消協活動への関心が広がるように魅力ある活動を展開します。

(1) 消費者運営委員会では、消費者幹事によるブロック産地訪問を3ブロックに分かれて実施しました。

ブロック内の会員産地の内、ここ数年、生産者との交流が行われていない産地を対象に訪問を行い、会員産地の現状を共有し、今後の生消協活動に向けた意見交換を行いました。



▲会員産地と消費者幹事との懇談の様子

### 3. これからの活動を発展させるべく、会議体や役員構成、活動内容などについて検討します。

(1) 組織検討委員会を設置し、会員拡大、各種会議体の在り方・進め方、役員選出、アドバイザー、などについて合計5回の議論を行いました。組織検討委員会では、香取前代表による生産者消費者協議会の歴史について学習の機会を設けた他、組織の在り方について発展的な議論が行われました。



▲協議会の歴史について説明する香取前代表幹事

### 4. 会員産地やパルシステム会員生協へも呼びかけ、各産地・生協や生消協の取り組みをHPやSNS等で発信し、リアルタイムで状況を伝えます。

(1) パルシステム生産者・消費者協議会のSNS (Facebook) への情報募集と周知を目的としたWEBチラシを作成し、会員産地・会員生協への広報を進めました。

(2) パルシステム生産者・消費者協議会の Facebook を中心とした会員産地やパルシステムの活動、消費者幹事による情報発信、各部会と連携した取り組みの発信を積極的に進めました。

(3) 消費者運営委員会および生産者運営委員会での SNS 活用の議論を行い、より積極的な情報公開と情報発信を進めるため、SNS の更なる活用を進める事を確認しました。



▲Facebookでの情報発信

## 5. パルシステム協力会と連携を進め、ともにパルシステムに関わる団体同士のよりよい関係の構築に向けて交流の場を検討します。

(1) パルシステム生産者・消費者協議会とパルシステム協力会の役員による連携会議が 2021 年に引き続き行われました。オンラインで開催された第 2 回連携会議 (2/17) では、協力会会員による産直の取り組みが報告され、協力会との連携の可能性と今後の進め方について意見交換を行いました。

(2) パルシステム協力会と共に「もっといい明日へ超えてく」説明会 (6/14) をオンラインで開催しました。パルシステム連合会広報本部加藤本部長を講師に、「ほんもの実感！」に代わる新運動テーマの概要についてお話しをいただきました。大津代表・安田協力会会長より、「今後に向けてパルシステムと共に取り組みを進める」と呼びかけがありました。



▲「もっといい明日へ超えてく」説明会

以上

2022年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表

2022年12月31日 現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
普通預金	17,888,890	未払金	713,175
前払費用	350,000	預り金	0
未収金	0	仮受金	0
立替金	0	前受金	510,000
		流動負債合計	1,223,175
流動資産合計	18,238,890	負債合計	1,223,175
		前期繰越金	32,240,016
		当期剰余金	△ 15,224,301
		剰余金合計	17,015,715
資産合計	18,238,890	負債・剰余金合計	18,238,890

損益計算書

自2022年1月1日 至2022年12月31日

(単位:円)

科目	当期金額
会費収入	0
収入計	0
委託費	3,600,000
通信費	318,082
旅費交通費	889,822
幹事会費	2,253,805
生産者運営委員	1,803,838
消費者運営委員	2,458,134
ブロック会議費	511,620
部会活動補助費	571,605
調査研究費	441,767
オンライン交流推進費	75,788
広報費	0
会議費	1,351,660
ホームページ運営費	55,000
事務所負担費	396,000
会計委託費	198,000
渉外費	179,232
アト`ハ`イサ`-経費	0
消耗品費	4,333
雑費	115,874
支出計	15,224,560
事業剰余金	△ 15,224,560
雑収入	259
雑損失	0
当期剰余金	△ 15,224,301
前期繰越金	32,240,016
次期繰越金	17,015,715

## 2022年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2022年 1月 1日 至 2022年 12月 31日

(単位:円)

	勘定科目(補助科目)	当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
収入	会費収入(生産者)	0	0	0	0.0%	生産者 パルシステムグループ ※1
	会費収入(パルグループ)	0	0	0	0.0%	
	合計	0	0	0	0.0%	
支出	委託費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局人件費
	通信費	500,000	318,082	△ 181,918	63.6%	
	(カタログ発送費)	300,000	78,904	△ 221,096	26.3%	
	(その他通信費)	200,000	239,178	39,178	119.6%	
	旅費交通費	2,400,000	889,822	△ 1,510,178	37.1%	現地4会場および前年監査1会場へ 監査人(生産者幹事)を派遣 6会場への産地関係者派遣 関西・以西ブロック会議へ幹事を派遣
	(公開確認会派遣)	800,000	311,973	△ 488,027	39.0%	
	(産直連続講座交通費)	800,000	296,134	△ 503,866	37.0%	
	(ブロック会議交通費)	800,000	281,715	△ 518,285	35.2%	
	幹事会費	3,000,000	2,253,805	△ 746,195	75.1%	
	(交通費)	1,600,000	1,406,847	△ 193,153	87.9%	
	(活動補助費)	1,400,000	846,958	△ 553,042	60.5%	幹事会合宿費等
	生産者運営委員会費	3,100,000	1,803,838	△ 1,296,162	58.2%	運営委員会(集合開催) 産直連続講座4企画食材等補助 産地研修現地移動・宿泊費、動画制作費等 パルグループ研修会へ幹事派遣(2企画)
	(交通費)	1,500,000	824,503	△ 675,497	55.0%	
	(活動補助費)	300,000	67,449	△ 232,551	22.5%	
	(リーダー研修補助)	900,000	855,666	△ 44,334	95.1%	
	(ほんもの実感!同乗研修)	400,000	56,220	△ 343,780	14.1%	
	消費者運営委員会費	3,000,000	2,458,134	△ 541,866	81.9%	
	(青年農業者交流会)	600,000	15,000	△ 585,000	2.5%	講師料
	(女性生産者交流会)	600,000	742,784	142,784	123.8%	現地移動費等
	(消費者幹事交通費)	1,500,000	1,435,652	△ 64,348	95.7%	運営委員会(集合開催)ブロック産地 訪問・フィールドワーク交通費
	(活動補助費)	300,000	264,698	△ 35,302	88.2%	ブロック産地訪問・フィールドワーク交流費
	ブロック会議費	1,200,000	511,620	△ 688,380	42.6%	ブロック会議(講師料他)・役員会費用 オンライン開催のため ブロック会議補助・役員会費用 オンライン開催のため
	(関東・中部)	400,000	78,561	△ 321,439	19.6%	
	(東北・北海道)	400,000	0	△ 400,000	0.0%	
	(関西・以西)	400,000	433,059	33,059	108.3%	
	(合同)	0	0	0	0.0%	
	部会活動補助費	2,500,000	571,605	△ 1,928,395	22.9%	研修会開催費 青果フォーラム講師料 動画制作補助・講習会開催費 オンライン開催のため オンライン開催のため
	(米部会)	500,000	226,911	△ 273,089	45.4%	
	(野菜部会)	500,000	80,336	△ 419,664	16.1%	
	(果樹部会)	500,000	264,358	△ 235,642	52.9%	
	(畜産部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(鶏卵部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	調査研究費	500,000	441,767	△ 58,233	88.4%	産直データブック購入費 PCR・抗原検査手配費用等
	オンライン交流推進費	200,000	75,788	△ 124,212	37.9%	機材運搬費・産地サポート費(12企画)
	広報費	200,000	0	△ 200,000	0.0%	加入促進対策費用
	会議費	1,800,000	1,351,660	△ 448,340	75.1%	会員生協別交流会補助・議案書等 講師料 協定会総会への幹事派遣等
(総会費用)	500,000	1,010,180	510,180	202.0%		
(農法研究会)	300,000	275,000	△ 25,000	91.7%		
(協会会との交流)	1,000,000	66,480	△ 933,520	6.6%		
ホームページ運営費	400,000	55,000	△ 345,000	13.8%	メンテナンス費用等	
事務所負担費	396,000	396,000	0	100.0%	半期毎の支払い	
会計委託費	198,000	198,000	0	100.0%	半期毎の支払い	
渉外費	200,000	179,232	△ 20,768	89.6%	慶弔関係費	
アドバイザー経費	300,000	0	△ 300,000	0.0%	会議、企画に応じ必要な方を依頼	
消耗品費	106,000	4,333	△ 101,667	4.1%	封筒作成、文具等	
雑費	100,000	115,874	15,874	115.9%	支払手数料、賛助金	
合計	23,700,000	15,224,560	△ 8,475,440	64.2%		
事業剰余金	△ 23,700,000	△ 15,224,560	8,475,440	64.2%		
雑収入	0	259	259	0.0%		
剰余金	△ 23,700,000	△ 15,224,301	8,475,699	64.2%		
前期繰越金	32,240,016	32,240,016	0	100.0%		
次期繰越金	8,540,016	17,015,715	8,475,699	199.2%	※2	

※1 前期繰越金が32,240,016円あるため、2022年度会費は徴収せずに繰越金を取り崩す形での運営となりました。

※2 次期繰越金には、2020年度を起点とした年間500,000円の周年事業積立金(累計1,500,000円)を含みます

2023年1月23日

パルシステム生産者・消費者協議会

監事 薄 一郎

監事 文字 悦子



## 監 査 報 告 書

次のように2022年度年間監査を行いましたので下記に報告いたします。

### 1、監査日時

2023年1月23日（月） 16:00～16:45

### 2、監査形式

Zoomを使用したオンライン監査

### 3、監査立会人

パルシステム生産者・消費者協議会 代表幹事 大津清次

パルシステム連合会 管理本部経理部 経理1課課長 小柴 壮志

経理1課 戸波 たかな

パルシステム生産者・消費者協議会 事務局 坂本 徹

### 4、監査範囲及び方法

貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。

### 5、監査意見

会計収支は適正に処理されていることを認めます。

会費徴収に関して、過去に前倒しでの会費徴収を行った経緯から、会員への適切な説明として会費算定期間および会費を元にした運営期間について混乱をきたさない丁寧な説明を求めます。

以上

## 第2号議案

### 2023年度活動方針案並びに予算案承認の件

#### 《2023年度方針案》

スローガン：「ローカルSDGsでもっといい明日へ超えてく！」

#### 1. 産直による地域づくりをすすめます

- (1) 国際情勢や気候変動に伴う国難級の事態に対して、生産者と消費者による産直の底力と地域や立場を超えた連帯により、新たな産直を構築していきます。
- (2) 地域を基盤とする持続可能な社会の確立を目指し、生産者と消費者が生活者として双方の立場から地域の「暮らし」を見直し、地域づくりへの参画をすすめます。
- (3) パルシステムの食料・農業政策の見直し論議へ参加し、パルシステム2030ビジョンや「食料・農業・農村基本法改定論議」、「みどりの食料システム戦略」などの動向を踏まえ、産地ビジョンの検証と新たな産地ビジョンの策定を会員産地へ呼びかけます。

#### 2. 食の未来に向けた取り組みをすすめます

- (1) パルシステムの「もっといい明日へ超えてく」の取り組みと連動し、お米を軸とした多様な食を支える生産者と消費者の交流を通じて、食の大切さと農の魅力を広い世代へ伝え、食料自給率向上と新たな担い手へつなげます。
- (2) 持続可能な農業の構築に向けて、おいしさの向上や資源循環、耕畜連携、肥料問題などに取り組みます。
- (3) 耕畜連携を更にすすめるため、畜産と国産飼料生産のつながりの見える化とモデル取り組みの実践をすすめます。
- (4) 部会活動は集合開催と共にオンライン開催やハイブリッド開催を活用し、農業現場における多様な課題や農業技術の共有を行い、生産者間での結束を深め、さらなる活動をすすめます。
- (5) 次世代リーダー研修を中心に会員産地、会員生協の未来を担う新たな人材育成を推進します。

#### 3. 生産者と消費者との相互理解を深めます

- (1) 会員産地の交流の実績と情報が見える化し、生産者・消費者・生協役職員による交流の機会の創出をすすめます。
- (2) 生産者・消費者・生協役職員の立場を超えた学習・交流を開催し、お互いの取り組みを理解し、支えあう関係づくりをすすめます。
- (3) 五感で感じられる集合した交流を大切にしながら、オンラインを活用した交流の研究とサポートを継続します。

#### 4. パルシステム生産者・消費者協議会の活動を発展させます

- (1) パルシステム生産者・消費者協議会活動をさらに飛躍させるため、組織の枠組み（組織規約）について論議をすすめます。
- (2) 「産直四原則」への理解と、その活動を分かち合う仲間を増やすため、パルシステムの産直産地で未会員産地への呼びかけを産直事業本部と共に行います。
- (3) 会員産地、会員生協、パルシステム生産者・消費者協議会の取り組みをSNS等でより活発に発信します。
- (4) パルシステム協力会と地域づくりに向けた課題を共有し、相互参画と交流により、共創を目指した活動に取り組みます。

以上

2023年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算案

自 2023年 1月 1日 至 2023年 12月 31日

(単位：円)

勘定科目(補助科目)		2023年度予算	構成比	備考
収入	会費収入(生産者)	12,760,000	53.7%	
	会費収入(パルシステムグループ)	11,000,000	46.3%	
	合計	23,760,000	100.0%	
支出	委託費	3,600,000	14.5%	事務局人件費
	通信費	300,000	1.2%	
	(カタログ等発送費)	100,000		カタログ等発送費用
	(その他通信費)	200,000		
	旅費交通費	2,300,000	9.2%	
	(公開確認会派遣)	700,000		5会場へ監査人・消費者幹事を派遣
	(産直連続講座派遣)	700,000		
	(ブロック会議派遣)	700,000		3会場へブロック役員・代表幹事・消費者幹事を派遣
	(その他派遣費用)	200,000		会員生協総会・協力会総会等へ生産者幹事を派遣
	幹事会費	2,600,000	10.5%	
	(旅費交通費)	1,500,000		
	(活動補助費)	1,100,000		講師料、幹事会合宿費等
	生産者運営委員会費	3,150,000	12.7%	
	(旅費交通費)	1,450,000		
	(活動補助費)	300,000		講師料・産直連続講座補助費
	(リーダー研修補助)	900,000		産地研修に関わる現地移動・宿泊費等
	(センター研修補助)	500,000		会員生協職員研修および企画等補助費
	消費者運営委員会費	2,950,000	11.9%	
	(青年農業者交流会)	600,000		産地開催での現地移動・講師料・実行委員会費等
	(女性生産者交流会)	600,000		首都圏開催での会場費移動費等・会員生協補助
	(消費者幹事旅費交通費)	1,450,000		産地訪問・フィールドワークを含む旅費交通費
	(活動補助費)	300,000		講師料、産地訪問・フィールドワーク時の交流費
	ブロック会議費	2,050,000	8.2%	
	(関東・中部)	400,000		ブロック会議実行委員会・役員会費用
	(東北・北海道)	400,000		ブロック会議・役員会費用
	(関西・以西)	700,000		ブロック会議・役員会・若手生産者交流会費用(単年度)
	(合同)	550,000		合同ブロック会議費用
	部会活動補助費	2,700,000	10.9%	
	(米部会)	600,000		各部会での講師料、イベント企画費、参加補助、生産物検査費用。米部会は「お米で超えてく」アクション運動企画・有機米サミット開催費用、果樹部会は果樹サミット開催に伴う時限的費用により増額
	(野菜部会)	500,000		
	(果樹部会)	600,000		
	(畜産部会)	500,000		
	(鶏卵部会)	500,000		
	調査研究費	200,000	0.8%	産直データブック購入費
	オンライン推進費	100,000	0.4%	機材運搬費・産地サポート費等
	広報費	200,000	0.8%	加入促進対策費用
	会議費	2,950,000	11.9%	
	(総会費用)	1,400,000		総会、会員生協別交流会補助
	(農法研究会)	550,000		講師料・会場費
	(協会との交流)	1,000,000		企画運営費・現地交流会費用等
ホームページ運営費	400,000	1.6%	メンテナンス費用等	
事務所負担費	396,000	1.6%	半期毎の支払い	
会計委託費	198,000	0.8%	半期毎の支払い	
渉外費	350,000	1.4%	慶弔関係費・自然災害等の見舞金対応予算 ※1	
アドバイザー経費	300,000	1.2%	会議、企画に応じ必要な方を依頼	
消耗品費	30,000	0.1%	封筒、文具等	
雑費	100,000	0.4%	支払手数料、賛助金	
合計	24,874,000	100.0%		
事業剰余金	△ 1,114,000			
雑収入	0			
剰余金	△ 1,114,000			
前期繰越金	17,015,715			
次期繰越金	15,901,715		※2	

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等がなかった場合は、次期繰越金とします。

※2 次期繰越金には、2020年度を起点とした年間500,000円の周年事業積立金(累計2,000,000円)を含みます。

新型コロナウイルス等の状況により、上記予算が計画通り進まなかった場合、2024年度会費の取り扱いについて幹事会へ一任とします。

## 第3号議案

### 役員改選の件

役員改選期にともない、下記の通りの役員承認をお願いします。

	選出枠	氏名	所属
生産者幹事	東北・北海道	五十川 賢治	大牧農場（北海道）
	東北・北海道	高橋 直之	庄内協同ファーム（山形県）
	関東・中部	小川 保	JAつくば市谷田部（茨城県）
	関東・中部	毛利 嘉宏	野菜くらぶ（群馬県）
	関東・中部	坂入 清史	八千代産直（茨城県）
	関西・以西	澤村 輝彦	水俣・不知火ネットワーク（熊本県）
	関西・以西	王隠堂 正悟哉	大紀コープファーム（奈良県）
	米部会	青木 等	JA新潟かがやき（新潟県）
	野菜部会	金谷 雅幸	サンドファーム旭（千葉県）
	果樹部会	鶴田 洋平	マルタ（全国）
	畜産部会	宮北 輝	ノーザンび〜ふ産直協議会（北海道）
	鶏卵部会	大須賀 裕	花兄園（宮城県）
	青年	山下 一樹	アップルファームさみず（長野県）
	消費者幹事	東京	戸谷 彩
神奈川		渡部 さと子	パルシステム神奈川
千葉		江尻 康代	パルシステム千葉
埼玉		國見 淑香	パルシステム埼玉
茨城 栃木		川浪 肇子	パルシステム茨城 栃木
山梨		小谷 眞弓	パルシステム山梨
群馬		大平 真紀子	パルシステム群馬
福島		矢吹 弥生	パルシステム福島
静岡		望月 静子	パルシステム静岡
連合会		渋澤 温之	パルシステム連合会
連合会		辻 正一	パルシステム連合会
連合会		島田 朝彰	パルシステム連合会
パル・ミート		網野 拓男	パル・ミート
監事		生産者	薄 一郎
	消費者	文字 悦子	パルシステム東京

※会員生協役員改選に伴う消費者幹事の変更がある場合は、組織規約第4条に従い変更する。

# —資料—

- 組織検討委員会答申
- 2022年度 主要活動日誌
- 幹事会・監査活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 部会活動状況
- 「産直連続講座」活動状況
- 生消協組織規約、運営規程、会費基準及び旅費・慶弔規程

## 組織検討委員会 答申

### 1、組織検討委員会設置の目的

2023年総会にて役員改選が行われ、現幹事の1期2年の任期が終了となります。次年度以降の生消協活動をさらに飛躍させるために、2021年度より運用し始めた役員選出の枠組みや活動内容についての評価を行い、次期にふさわしい組織体制について議論し提案することを目的とします。

### 2、メンバー

大津 清次	生産者幹事・代表幹事（委員長）	渡部 さと子	消費者幹事・副代表幹事（神奈川）
小川 保	生産者幹事・副代表幹事	戸谷 彩	消費者幹事・パルシステム東京
高橋 直之	生産者幹事・東北北海道ブロック長	矢吹 弥生	消費者幹事・パルシステム福島
毛利 嘉宏	生産者幹事・関東中部ブロック長	望月 静子	消費者幹事・パルシステム静岡
澤村 輝彦	生産者幹事・関西以西ブロック長	辻 正一	消費者幹事・常務執行役員
オブザーバー	小林幹夫（商品開発本部担当部長）	事務局	安原仁、坂本徹（交流政策室）

### 3、審議内容

大津委員長より本委員会では以下について議論を行いたい旨の提案がなされ、これについて議論や学びの場を設定し進めました

[検討提案]

- (1) 生消協会員拡大(加入促進)は過去の歴史を学び、理解をし、方向性を決定したい。
- (2) 新型コロナ禍、各種会議体の在り方、進め方をどのようにしていくのかを考えていきたい。
- (3) 前回も議論があったが、女性生産者幹事や消費者幹事の任期について、意見交換を行いたい。
- (4) アドバイザーを今後どうしていくのか議論しておきたい。
- (5) 代表幹事、副代表幹事、生産者運営委員長、幹事の選出方法や任期など確認を行いたい。
- (6) 協議を踏まえ必要に応じて規約、規程の改定案検討。

### 4、答申内容

#### (1) 生消協会員拡大議論

現在の会員の実態から、産直産地の生消協加盟(推進)を産直事業本部の協力を得て行い、パルシステムを含めた様々な情報の共有と産直産地同士の情報交換に多くの会員の参加を進め、課題解決の場として活動や交流の活発化(参加増)を求めることを提案します。

また、会員拡大に向けて、パルシステムとの取引形態から、会員の区分化と定義、規定化を行い、新たに「準会員」を設置し、すそ野を広げることを提案します。(※2)参照)

ただし、「準会員」を設置することだけでは交流は進まないことから、加盟を推進する際は、推進する産直産地には、十分に交流を行うことへの理解を促すと共に、交流が行えていない産地が増加しないようにデータの收拾や公表を行い、多くの会員が交流に参加できるように配慮を行うことも必要です。

また、交流は「産地と生協組合員」だけではなく、「産地同士」「産地と生協役職員」との学習や触れ合い、情報交換など、生消協の活動やパルシステムと行う活動のすべてが交流であると捉え、積極的に参加を呼びかけ、多くの産地がこれに賛同することを望みます。

## 1) 現状共有

### [会員拡大の目的]

- ・ パルシステムの産直を広げるため、さらに生産者と消費者の交流が活発となるよう、生消協への加入を促進
- ・ 生消協への加入は自由意志であり、目的に賛同してもらい加入を促す

### [現在の状況]

- ・ 産直データブック 2022 で確認すると、生消協の加入産地は、産直産地(産直協定書締結産地)のうち 45.4%。(帳合先が加入し、これに紐づく産直産地が加入していない場合も含めると 67.1%)
- ・ 新型コロナの影響でオンライン交流も行ってきたが、生産者と組合員の交流は過去 5 年間(2017~2021 年度)を通算すると 57.1%。(生消協未加入産地は 2.8%)

### [香取前代表による学習会(第二回組織検討委員会議事録より抜粋)]

- ・ パルシステム連合会誕生時、産地同士が結束する必要性を感じ、生産者の組織構想が打ち出された。しかし、生産者だけの組織では、パルシステムと相反する動きとなることを懸念し、消費者を加えることで、その動きを抑え、立ち上げが行われた。
- ・ 時代と共に生消協も進化し、3 代目代表幹事時代に事務局をパルシステムに委託する(2006 年)ことで、様々な情報を共有できるようになり、産地そのものが「どうあるべきか」「どう組織運営を行っていくか」を考える活動に進むことができるようになった。
- ・ パルシステムの良さは思ったことを言える環境、それに対しての聞く耳を持っていること、その上で産直産地に対して平等であること、約束した事を履行していること。受けて側がこのことを理解して取引や協議を行わないとその良さが損なわれる。
- ・ 生消協は課題解決の場。生産者は課題をどう乗り越えるかを仲間と共に情報交換、共有を。消費者はその内容や姿を自組織へ伝えていくことで、生産者を守り、ひいては消費者を守ることつながる。
- ・ 単なる取引関係に陥ると「売り買い」の立場から確執が生まれてしまう。それを乗り越えるからこそ、生消の関係が生まれる。
- ・ 生消協は自分自身の力を高められる場所である。取引の形態がどのような形であっても、パルシステムの考えに共感し、その活動を理解し、一緒になって行動をすることを産直産地には望みたい。すべての活動に参加ができなくても時には(少なくとも)生産者同士の会議や交流に参加してほしいと思う。生消協の会員を増やすのではなく、入って一緒に行動(活動)する産地を増やすことを望む。

## 2) 会員区分(案)と定義(案)

会員区分	正会員	準会員(新設)	賛助会員
会員	この会の目的に賛同し、加入した者	正会員に協力する者で、この会の目的に賛同し、加入した者	パルシステム協力会の正会員又は準会員で、パルシステムの産直産地の生産者団体等
議決権	有する	有しない	有しない
会費等	会費基準に準じる	●円(情報提供料見合い)	無料

※ 現在の賛助会員は「水産産地」

## (2) 各種会議体の在り方、進め方

コロナ禍でオンラインによる会議を多く開催してきましたが、議論に対する活発感はコロナ前と比較して少ないと感じます。これは、まだオンライン会議に慣れていないことも考えられますが、集合開催に見られるちょっとした隣同士の意見交換が行えず、議論のふくらみが多くはありません。

しかし、オンライン会議は、会議時間の延長が少ないことや移動の発生が無いこと、日程調整の選択幅が広がるなどの時間的メリット、これらに伴う経費軽減のメリットがあり、参加に対する負荷の軽減を図る手段として開催の選択方法から削減することは必要ないと考えます。

これらのことを考慮し、各会議の開催数、開催方法は、下表を基本とし、議論や内容などを鑑みて、集合開催、ハイブリッド開催、オンライン開催を併用して行うことを提案します。

なお、生産者運営委員会は6月開催後、11月開催まで期間が空いてしまい、継続した活動の協議が中断されることから、新たに9月(または8月)の開催と消費者運営委員会を年12回開催を提案します。

会議体名	開催方法(基本)	開催回数
幹事会	集合開催(ハイブリッド開催含む)	年4回(2、4、7、11月)
生産者運営委員会	集合開催(ハイブリッド開催含む)	年5回(1、4、6、9、11月)
消費者運営委員会	集合開催(ハイブリッド開催含む)とオンライン開催を交互	年12回
ブロック会議	集合開催(ハイブリッド開催含む)	各2回(個別、合同)

また、2022年度は活動日程が変更になることが起きましたが、活動日程はできる限り総会議案書に掲載する日程とすることを望みます。

専門部会の活動やイベント行事の開催は、担当幹事、部会長、副部会長の専権事項であることから、それぞれに委ねます。

## (3) 役員を選出(役員定数、女性生産者幹事、消費者幹事の任期など)

2020年組織検討委員会で整理された「ブロック選出幹事を減らし、専門部会選出を設ける」役員選出は専門部会の活性化にもつながっており、有効に機能をしていると考えます。次期もこの体制継続を望みます。

女性生産者幹事については、2020組織検討委員会同様、結論に至りませんでした。2020年組織検討委員会の答申を引き続き継続する事を確認しました。

消費者幹事の任期についても、2020組織検討委員会同様、任期を一定化することは困難であることを理解しました。一方で消費者幹事に着任してから生消協を理解していくのではなく、会員生協の新人理事を中心とした生消協活動の学習会の開催をパルシステムに求め、消費者幹事着任時にはすでに生消協活動の知識保持していることや理解が進んでいることで任期の長短を補うことも必要ではないかと考えます。

代表幹事や生産者運営委員長の人選については組織検討委員会では議論せず、現行の代表幹事や生産者運営委員長と事務局にて検討していきます。

生産者幹事の選出方法について、ブロック枠は各ブロック役員会等ブロック内で検討し人選することとします。専門部会は各部会で人選できる部会は検討し、その人選をもって事務局会議にて検討し選出を決めていくこととします。

また、生産者幹事の任期、役員としての任期について議論をしました。今期から若い世代に交代をしているものの、今後、長期に渡り同一人物がその役目を担うのではなく、会そのものが停滞をしないように、幹事や役員の任期の目安を幹事会において議論しておく必要があると考えます。

#### (4) アドバイザーについて

固定したアドバイザーを置くことも必要であるが、目まぐるしく変わる農政に対し、これらに関する学習は、そのテーマごとに専門性を考慮し、必要都度に依頼するのが良いのではないかと考えます。

その中で、継続したテーマを生消協内で協議する際にアドバイザーを改めて依頼するのが良いのではないかと考えます。

また、幹事(特に代表幹事)の退任後にアドバイザーとして要請する目的は、運営の方向性、継続した課題が従来と異ならないようアドバイスをいただくこととし、その期間は1～2年程度とするのが良いのではないかと考えます。

#### (5) その他

- 1) この提案に基づく規約、規程の改定は、総会、幹事会にて手続きをお願いします。

### 5、組織検討委員会論議の経過

#### 第1回

日時：2022年6月15日（水） 15：00～16：30

- 内容：1. 組織検討委員会開催に当たって  
2. 意見交換

#### 第2回

日時：2022年7月8日（金） 16：00～18：10

- 内容：1、生消協会員拡大へのたたき台報告  
2、香取前代表を講師とした生消協の歴史、行ってきたことなどのレクチャーと意見交換

#### 第3回

日時：2022年8月5日（金） 16：00～17：20

- 内容：1、第2回を踏まえた意見交換  
(1) 生消協会員拡大  
(2) アドバイザーについて

#### 第4回

日時：2022年9月15日（木） 15：00～17：20

- 内容：1、意見交換  
(1) 各会議体の在り方、進め方  
(2) 第3回の意見を踏まえた生消協会員拡大提案  
(3) 第3回の意見を踏まえたアドバイザーの素案

#### 第5回

日時：2022年10月25日（火） 16：00～17：00

- 内容：1、意見交換  
(1) 役員選出の仕方と任期  
2、答申（案）の検討

以上

《2022年度 パルシステム生産者・消費者協議会 活動日誌 2022年1月～2022年12月》

月	日	会議・企画名	会場等
1月	7日	第1回消費者運営委員会	オンライン
	12日	第29回農法研究会・合同ブロック会議	オンライン
	12日	新春の集い	オンライン
	20日	第1回生産者運営委員会	オンライン
	24日	第2回消費者運営委員会	オンライン
2月	3日	第1回幹事会	オンライン
	17日	生消協・協力会連携会議	オンライン
3月	3日	第33回通常総会	オンライン
	4日	会員生協別交流会	オンライン
	11日	米部会	オンライン
	11日	鶏卵部会 たまご会議	オンライン
	23日	果樹部会 りんご会議	オンライン
4月	4日	第3回消費者運営委員会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	7日	第2回生産者運営委員会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	13日	第2回幹事会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	20日	関東・中部ブロック会議	オンライン
	22日	果樹部会 山梨フルーツ会議	オンライン
5月	7日-8日	第4回消費者運営委員会 (フィールドワーク)	無茶々園
	27日	鶏卵部会 たまご会議	オンライン
6月	6日	第5回消費者運営委員会	オンライン
	9日	東北・北海道ブロック会議	オンライン
	14日	「もっといい明日へ 超えてく」説明会	オンライン (協力会との共催)
	15日	第1回組織検討委員会	オンライン
	23日	第3回生産者運営委員会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
7月	4日	第6回消費者運営委員会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	8日	第2回組織検討委員会	オンライン
	13日	第1回次世代リーダー研修	オンライン
	20日	果樹部会 りんご会議	オンライン
	21-22日	幹事合宿・第3回幹事会	(株)ジェイラップ
8月	1日	米部会 研修会	JAいすみ (ハイブリッド)
	1日	第7回消費者運営委員会	オンライン
	5日	第3回組織検討委員会	オンライン
	8-9日	消費者幹事 東北・北海道ブロック産地訪問	庄内協同ファーム、うもれ木の会
	19-20日	消費者幹事 関西・以西ブロック産地訪問	水俣・不知火ネットワーク、草枕グループ
	24-25日	第2回次世代リーダー研修	JA新潟かがやき
	31日-9月1日	関西・以西ブロック会議	紀ノ川農協 (ハイブリッド)
9月	1日	果樹部会 みかん会議	紀ノ川農協
	5日	第8回消費者運営委員会	東新宿事務所
	9日	鶏卵部会 たまご会議	オンライン
	9-10日	消費者幹事 関東・中部ブロック産地訪問	野菜くらぶ、中山食茸
	15日	畜産部会	オンライン
	15日	第4回組織検討委員会	オンライン
10月	3日	第9回消費者運営委員会	オンライン
	6日	第11回青果フォーラム	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	13日	青年農業者交流会	JAつくば市谷田部 (ハイブリッド)
	25日	第5回組織検討委員会	オンライン
11月	3日	第4回生産者運営委員会 (終了後、合同会議)	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	3日	第10回消費者運営委員会 (終了後、合同会議)	東新宿事務所
	10-11日	第21回女性生産者交流会	水俣・不知火ネットワーク
	16日	第3回次世代リーダー研修	オンライン
	17日	第4回幹事会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
12月	2日	みどりの食料システム戦略学習会	オンライン
	5日	第11回消費者運営委員会	オンライン
	7-8日	第4回次世代リーダー研修	東新宿事務所
	9日	米部会	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	9日	鶏卵部会 たまご会議	東新宿事務所 (ハイブリッド)
	21日	果樹部会 特別栽培農産物実践講習会	長野県上田市技術研修センター

## 《幹事会》

月日	開催場所	議題
2月3日	東新宿事務所 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第33回通常総会へ付議する議案について               <ol style="list-style-type: none"> <li>2021年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件</li> <li>2022年度活動方針並びに予算案承認の件</li> </ol> </li> <li>生消協加入促進計画について</li> <li>農林水産省との意見交換報告</li> </ul>
4月13日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドバイザー契約について</li> <li>幹事会合宿について</li> <li>公開確認会・ブロック会議参加について</li> <li>次世代リーダー研修について</li> <li>組織検討委員会設置について</li> </ul>
7月21-22日	ホテルサンルート須賀川 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>㈱ジェイラップ視察</li> <li>消費者運営委員会フィールドワーク報告</li> <li>「共創による地域づくり」議論</li> </ul>
11月17日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織検討委員会答申について</li> <li>農法研究会について</li> <li>総会・会員生協別交流会について</li> <li>2023年度活動方針案について</li> </ul>

## 《監査》

月日	開催場所	内容
9月21日	オンライン	2022年1月1日～6月30日までの半期決算監査
1月23日	オンライン	2022年1月1日～12月31日までの年間決算監査

## 《上期ブロック会議》

月日	ブロック	開催場所	概要
4月20日	関東・中部	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針・実績等説明</li> <li>産地ビジョンについて事例共有</li> <li>グループディスカッション 「産地ビジョン・各産地の状況」</li> </ul>
6月9日	東北・北海道	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針・実績等説明</li> <li>庄内産直ネットワーク報告 「みどりの食料システム戦略に先行した地域での取り組み」</li> <li>グループディスカッション 「各産地の省力化に向けた明るい話題」</li> </ul>
8月31日 -9月1日	関西・以西	紀ノ川農業協同組合 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針・実績等説明</li> <li>紀ノ川農業協同組合報告 「地域における持続可能な農業を支えるには」</li> <li>次年度開催産地報告</li> <li>グループディスカッション 「持続可能な農業経営を楽しくやるには」</li> </ul>

## 《下期ブロック役員会》

月日	ブロック	開催場所	概要
11月3日	関東・中部	東新宿事務所	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度ブロック会議</li> <li>次期ブロック役員人事・選出幹事</li> <li>その他</li> </ul>
11月4日	関西・以西	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度ブロック会議</li> <li>次期ブロック役員人事・選出幹事</li> <li>その他</li> </ul>
11月4日	東北・北海道	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度ブロック会議</li> <li>次期ブロック役員人事・選出幹事</li> <li>その他</li> </ul>

## 《生産者運営委員会》

月日	開催場所	議題
1月20日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度活動方針案</li> <li>・2022年度部会活動・予算議論</li> </ul>
4月7日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度担当幹事について</li> <li>・次世代リーダー研修</li> <li>・センター研修</li> <li>・各部会議論</li> </ul>
6月23日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度青果フォーラム</li> <li>・生消協SNS活用</li> <li>・懇親会等の開催要項</li> <li>・青年農業者交流会</li> <li>・各部会議論</li> </ul>
11月3日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会ごとの次年度活動方針および活動議論</li> </ul>

## 《消費者運営委員会》

月日	開催場所	議題
1月7日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度生消協活動方針について</li> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・ブロック会議について</li> <li>・フィールドワークについて</li> </ul>
1月24日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度生消協活動方針について</li> <li>・総会での役割分担について</li> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・フィールドワークについて</li> </ul>
4月4日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック会議・公開確認会派遣について</li> <li>・組織検討委員会について</li> <li>・会員生協別交流会報告</li> </ul>
5月7日-8日	無茶々園 フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圃場および施設見学</li> <li>・産地交流会</li> <li>・地域づくりの取り組み視察</li> </ul>
6月6日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者運営委員会スケジュールについて</li> <li>・フィールドワーク振り返り</li> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・SNS活用論議</li> <li>・ブロック産地訪問・関西以西ブロック会議派遣</li> </ul>
7月4日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・SNS活用について</li> <li>・ブロック産地訪問について</li> <li>・生消協・会議体のあり方議論</li> </ul>
8月1日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・SNS活用について</li> <li>・生消協の会議体の在り方議論</li> <li>・ジェイラップ視察報告</li> </ul>
9月5日	東新宿事務所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・生消協の会議体の在り方議論</li> <li>・SNS活用について</li> <li>・ブロック産地訪問報告</li> <li>・関西・以西ブロック会議報告</li> <li>・その他</li> </ul>
10月3日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・2023年度消費者運営委員会活動について</li> <li>・2023年度フィールドワークについて</li> <li>・ブロック産地訪問報告</li> <li>・その他</li> </ul>
11月3日	東新宿事務所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生産者交流会について</li> <li>・2023年度フィールドワークについて</li> <li>・その他</li> </ul>
12月5日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織検討委員会答申</li> <li>・2023年度生消協活動方針について</li> <li>・女性生産者交流会報告</li> </ul>

## 《各部会報告》

(米部会)

月日	開催場所	議題
3月11日	オンライン	・JA 新みやぎプレゼンテーション ・米産地会議での提案を受けての議論
8月1日	JAいすみ (ハイブリッド)	・有機米による地域づくりの取り組み視察 ・圃場視察
12月9日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	・JAおおぞらプレゼンテーション ・2023年度米部会活動の検討 ・次世代リーダー研修報告 ・その他

(野菜部会) ※役員会のみ

月日	開催場所	議題
5月11日	オンライン	・青果フォーラムについて ・その他

(果樹部会)

月日	開催場所	議題
3月23日	オンライン	りんご会議 ・産地リレー動画について ・防除計画についての意見交換 ・りんご会議活動予算について
4月22日	オンライン	山梨フルーツ会議 ・活動内容案 ・実行委員検討
7月20日	オンライン	りんご会議 ・産地報告 ・グループディスカッション 「生産技術、後継者問題、省力化について」
9月1日	紀ノ川農業協同組合	みかん会議 ・課題共有と意見交換 ・今後の取り組みについて
12月21日	長野県上田市技術研修センター	特別栽培農産物実践講習会 ・特別栽培農産物ガイドライン講習 ・飯塚果樹園圃場視察

(鶏卵部会・たまご会議)

月日	開催場所	議題
3月11日	オンライン	・鶏卵情勢報告 ・各産地報告 ・2022年度部会活動について
5月27日	オンライン	・鶏卵情勢報告 ・各産地報告 ・その他
9月9日	オンライン	・鶏卵情勢報告 ・各産地報告 ・その他
12月9日	東新宿事務所 (ハイブリッド)	・鶏卵情勢報告 ・産地報告 ・2023年度部会活動について ・その他

(畜産部会)

月日	開催場所	議題
9月15日	オンライン	・飼料情勢についての学習会 ・畜産情勢についての学習会 ・その他

## 《公開確認会》

月日	開催地	公開確認会開催産地名	監査品目	主催生協
2月28日	和歌山県	JA紀南 田辺印の会	有機梅	パルシステム神奈川
7月15日-16日	岩手県	までっこチキン生産者連絡協議会	までっこ鶏	パルシステム東京
8月18日-19日	山梨県	ももっこファーム山梨	種無巨峰・ピオーネ	パルシステム山梨
10月12日-13日	島根県	やさか共同農場	有機小松菜	パルシステム神奈川
10月21日	石川県	JAおおぞら	能登棚田米こしひかり	パルシステム埼玉
12月8日	茨城県	葉菜野果産直	長いも	パルシステム茨城 栃木

## 《産直連続講座》

	開催日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数
1	7月13日	千葉	ゼスプリインターナショナルジャパン	ゼスプリの波越様より、キウイの品質、残留農薬、検疫、トレーサビリティなど安全性のこだわりなど伺い、国際産直のキウイをより身近に感じていただき、パルスシステムの取り組みについて、より深い理解を頂きました。座学後、印西センターにてキウイを使った調理を紹介し、販売拡大につなげました。	23
2	7月25日	東京	謙信の郷	謙信の郷の歴史、米作りのこだわり、季節ごとの画像を交えながらお米ができるまでの紹介、田んぼに生息する生き物を画像および中継で紹介後、お米の保存方法や美味しい炊き方や食べ方を説明頂きました。	26
3	8月2日	静岡	伊豆鶏業	伊豆鶏業の飼料のこだわりやたまごの美味しさを伝えていただきました。また、連合会畜産課の藤井様より、パルスシステムで取り扱いのあるたまご、国産飼料たまごについて説明を頂きました。	27
4	8月17日	東京	アップルファームさみず	アップルファームさみずの歴史・生協とのつながり、パルスシステムとの取引商品、アップルファームさみずの特徴的な取り組みを説明頂きました。また、りんご料理を動画で紹介頂きました。	33
5	8月17日	東京	佐原農産物供給センター	佐原農産物供給センターの歴史・生協とのつながり、栽培品目について説明を頂きました。農め〜くらぶの活動紹介とさつまいものサイコロケーキの作り方を紹介頂きました。	25
6	8月25日	千葉	水俣不知火ネットワーク	水俣・不知火ネットワークによる化学合成農薬や化学肥料に頼らない栽培のこだわりを伺いました。講義後、担当スタッフからトマトレシピの調理デモンストラクションを行いました。トマトを冷凍してすりおろす「トマトだれ」や冷製パスタなどを参加者に紹介しました。	13
7	9月2日	埼玉	花咲農園	「ばる☆てらす」に花咲農園代表の戸澤様をお招きし動画による産地紹介を頂きました。農機具などの作業場と圃場、動画にてぶどうができるまでを紹介頂きました。その後ぶどうの試食・クイズを行いました。終了後時間のある方は残って頂きボーナス中継として加工所の見学を行いました。	27
8	9月14日	山梨	島原自然塾	産地紹介とこだわりの人参、生姜のお話をしていただき組合員と生産者の交流を深めました。また西桂センターサポーターおすすめ料理として人参と生姜の料理紹介を画像にて共有しました。参加者には島原自然塾さんより旬な「しょうが」をプレゼントしました。	24
9	9月15日	千葉	JA新潟かがやき	JA新潟かがやきの概要とパルスシステムとのつながり・商品案内を学びました。中継では、田んぼと米倉庫を繋ぎました。電子レンジでの豆腐作りを行い、試食をしました。	18
10	9月28日	神奈川	伊豆鶏業	実際に一般の卵と産直たまごの黄身の色や殻の匂いの違いを確認し、卵がけごはんの試食など行い、産地概要、生産者紹介、飼育環境やこだわりなど説明頂きました。2014年雪害の際、パルスシステム職員が駆けつけ復旧の手伝い、カンパで助けられたことなどにも触れられ、国産飼料たまごについて説明を頂きました。	15
11	9月30日	埼玉	ノーザンび〜ふ産直協議会	バル・ミートより産直牛肉について説明を頂き、宮北会長より、宮北牧場の歴史、生産概要や自給飼料、パルスシステムとの取り組みなど説明頂きました。講演後、試食を挟み質疑応答を行い、コア・フード牛肉のこだわりとおいしさを深く理解する企画となりました。企画後、3名のコア・フード牛肉登録申込がありました。	27
12	10月1日	群馬	御坂うまいもの会	動画による圃場紹介ぶどうができるまでを視聴後、質疑応答、ぶどうの試食・クイズ、交流を行いました。また、時間がある方は残って頂き、引き続き加工場の中継を行いました。	35
13	10月6日	山梨	までっこチキン生産者連絡協議会	バル・ミートよりパルスシステムの産直鶏肉について、までっこチキン生産者連絡協議会、十文字チキンカンパニーよりまでっこ鶏の魅力や循環型農業について説明を頂きました。その後、アイスブレイクとしてクイズを行い、鶏舎内外等 動画視聴・生産者の一日紹介など説明頂き、活動組合員による「までっこ鶏もも唐揚げ用」を使ったレシピ紹介(全5品)しました。	36

14	10月10日	新潟	富良野青果センター	富良野青果センター会社概要、栽培農産物、パルシステムとの歴史などを紹介頂きました。「エコ・じゃがいも」の栽培基準の説明やセットセンターに届くまでの工程について学びました。炊飯器を使ってできる蒸しじゃがいもを仕込んでもらい、できたてホカホカのじゃがいもを試食しました。	13
15	10月14日	千葉	JAやさと	平飼いたまごのこだわりの飼料や取り組みについてお話を聞いたり手作りの鶏舎でのびのびと動き回る様子をオンラインで実際に見てもらい、紙面では伝えきれない生産者の熱い思いも身近に感じてもらいました。平飼いたまごの品質や価格に満足してもらえる内容となりました。	24
16	10月21日	神奈川	やさか共同農場・西日本有機農業生産協同組合	10月の公開確認会報告を兼ねて、新横浜本部よりオンラインで開催しました。生産者による産地紹介、質疑応答、取り組み説明、動画による基礎学習会・事前学習会・公開確認会の様子紹介、監査人による公開確認会および産地取り組み紹介・感想、産地試食品(有機甘酒)での乾杯などを行いました。	47
17	10月25日	福島	御坂うまいもの会	シャインマスカットをはじめとするぶどうと桃の作り方やこだわりの紹介、普段見る機会のない農機具の説明やぶどうと桃が育つまでの映像を視聴しました。質疑応答をその都度行い、交流しながら楽しく講習会を行えました。参加者お土産には、販売に向けて製造している、ピオーネと白桃のジャムをいただきました。	25
18	10月25日	群馬	ポークランドグループ	オンラインにて開催。パル・ミートより会社紹介、豊下代表より動画にて産地紹介を頂きました。その後、質疑応答、デモンストレーション、調理、試食・交流を行いました。	37
19	10月25日	茨城 栃木	米沢郷牧場	生産者の伊藤様、斎藤様、パルミートの山崎様より、農業・畜産の連携、飼料自給率向上を目指す「日本型畜産」、アニマルウェルフェアをお話いただき、改めて尊敬と感謝の念を抱く講座となった。人気商品であるスパイシーチキンなどの試食を用意。最後に米沢郷牧場のラ・フランスを参加者へ土産として配りました。	31
20	10月26日	東京	アグリノベーションズカンパニー	アグリノベーションズカンパニーの加藤様、野村様を講師に招き、オンラインにて開催しました。国産飼料たまごの概要説明、アグリノベーションズカンパニーの概要説明を頂きました。その後、たまごクイズを行いました。	16
21	11月6日	茨城 栃木	ポークランドグループ	組織合同20周年企画としてオンラインで開催しました。パル・ミートから産直豚について、豊下代表からポークランドの取り組みとクイズ、豚舎とライブ中継では、もみ殻などを敷き詰め、自由に走り回る豚を見ることができ、きれいな環境で大切に育てられていることがわかりました。飼料用米40%配合のこめ豚を食べることが日本の食料自給率向上にもつながることを学びました。参加者には、日本のこめ豚の焼肉セットとしゃぶしゃぶセットをプレゼントしました。	61
22	11月15日	福島	までっこチキン生産者連絡協議会	までっこ鶏の違いとこだわり、美味しさの理由を、現地の映像、交流を通して組合員に伝える事ができました。までっこチキン生産者連絡協議会の皆さんから、会社概要、こだわり、鶏舎の映像を見せて頂きました。元気に動き回る鶏や、清潔感ある鶏舎に参加者から驚きの声もありました。楽しく工夫されたクイズや余談なども挟んで頂き、参加者の皆さんも質問や意見を緊張せず伝える事が出来る雰囲気で行えました。	29
23	11月15日	山梨	奥中山高原農協乳業	奥中山高原農協乳業の紹介、「いわて奥中山の低温殺菌牛乳」のYouTubeを視聴しました。その後、牛舎から中継を頂き、質疑応答を行いました。	29
24	11月18日	千葉	奥中山高原農協乳業	館山、野田センター、岩手の3元中継で生産者牧場から五十嵐様によるライブ中継を開催しました。動画により生産者の苦労や牧場の様子、生産者の声を生で参加者に聞いてもらいました。参加者から生産者に質問を行い、コミュニケーションを図ることができました。牛乳消費レシピを紹介し、買って支える事をお願いしました。	18
25	11月19日	東京	ポークランドグループ	パル・ミートより産直豚肉に関して、商品紹介を頂きました。ポークランドグループ、こめ豚、震災(輸入飼料)前と震災後、アニマルウェルフェアについて説明を頂きました。	23
26	12月3日	茨城 栃木	パシフィック・トレード・ジャパン	ペイソー社長と水田様と共に栃木センターを会場に実施。タイの産地を繋いで、オンさんの現地通訳により現地の様子やバナナ栽培について知ることができました。	18
合計参加人数					700

※会員生協の開催報告書をもとに事務局にて一部加筆・修正いたしました。

## 組 織 規 約

1990年設立総会 制定  
2001年第12回総会 一部改訂  
2006年第17回総会にて補強  
2007年第18回総会 一部改訂  
2011年第22回総会 一部改訂  
2013年第24回総会 一部改定  
2021年第32回総会 一部改定

この規約は、2021年3月4日より施行する

### (名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

### (目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

### (構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株)パルミートをもって構成する。

### (役員)

第4条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

#### 【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、各専門部会、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。任期は2年とし、再選を妨げない。なお、役員の数については年度ごとに幹事会で決める。

#### 【監事】

監事は毎運営年度2度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者1名・消費者1名とする。

### (会費)

第5条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。

2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

### (運営)

第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。

2 運営年度は、1月1日より12月31日までとし、毎年一回以上総会を開く。

### (所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

### (改廃)

第8条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。

## 運 営 規 程

(総則)

### 第1条

パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

### 第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

(幹事会)

### 第3条

この会は次の内容で開催する。

1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
3. 幹事会は代表幹事が召集する。
4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

### 第4条

1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

### 第5条

#### ■生産者運営委員会

1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
2. この会には委員長1名をおく。
3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

#### ■地域ブロック

1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

#### ■専門部会

1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長をおくことができる。
3. 各部会ごとに年1～2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行う。

#### ■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することができる。

(消費者運営委員会)

#### 第6条

1. 消費者幹事をもって組織する。
2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

#### 第7条

1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
2. 代表の下に事務局会議を設置する。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

## 会費基準及び旅費・慶弔規程

### (会費基準)

#### 第1条

##### ①生産者団体

1. 生産者会費は最低会費を1万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

##### ②消費者団体

1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
  - (ア) 消費者側（会員生協・連合会・子会社）は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
  - (イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
  - (ウ) 会員生協会費は、パルシステム（無店舗事業に限定）の当該年度の3月末登録組合員の数値（Webサーバーから抽出）を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

### (会費払込)

#### 第2条

1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の12月末までに各団体へ請求書を発行し、1月末日までに行うものとする。
2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、4月末日までに行うものとする。
3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	会費額	基準	会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

### (役員・事務局旅費支給規程)

#### 第3条 総則

- 1 幹事会・生産者運営委員会・消費者運営委員会・他ブロック会議、会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定の定めによる。
- 2 自エリアのブロック会議、催事（青年農業者交流会・青果フォーラム・農法研究会・部会主催の会合など）については支給しない。

#### 第4条 支給額算出根拠

- 1 交通費は、原則として領収書等によって確認される次の金額を支給する。ただし、領収書等による確認が困難な場合は、公共交通機関の料金及び別に定める基準によって支給する。
  - (1) 自動車等の燃料代及び有料道路使用料金、駐車料金等
  - (2) 鉄道・バス等の乗車運賃及び特急・指定席料金
  - (3) 航空賃のエコノミークラス料金
  - (4) タクシー乗車賃
  - (5) レンタカー利用代金
- 2 宿泊を伴う企画への参加の場合は可能な限り出張パック等を利用する。単独の会議（午前中のみ、または、午後のみ）などで前泊・後泊での参加の際、算定期間は1泊2日とし、交通費・宿泊費補助の上限を5万円とする。2日間連続しての会議参加の場合はこの限りではない。
- 3 当協議会活動と他業務と並行する場合、交通費・宿泊費総額の半額を支給する。

#### 第5条 支給方法

- 1 会合開催日から1ヶ月以内に事務局へ経路や経費を明記した清算書を提出し支給する。

#### 第6条 規定の改廃

- 1 この規程の改廃は、幹事会が行う。

#### (慶弔規程)

#### 第7条

1. 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

#### (事務局)

#### 第8条

1. 事務局の選任は幹事会が行う。
2. 雇用は連合会が行う。
3. その他必要事項については幹事会が裁定する。

2020年2月7日改定

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

東北・北海道ブロック		関東・中部ブロック	
1	あいづグリーンネットワーク	47	有限会社伊豆鶏業
2	会津よつば農業協同組合	48	いすみ農業協同組合
3	秋田ふるさと農業協同組合	49	農事組合法人エコーたまつくり
4	株式会社イナゾーフาร์ม	50	えちご上越農業協同組合
5	うもれ木の会	51	えちご中越農業協同組合
6	株式会社エブロン	52	遠州中央農業協同組合
7	有限会社大牧農場	53	有限会社小川和男養鶏場
8	大潟村産直会オーリア21	54	株式会社オルター・トレード・ジャパン
9	雄勝りんご生産同志会	55	勝沼平有機果実組合
10	奥中山高原農協乳業株式会社	56	神奈川中央養鶏農業協同組合
11	音更町農業協同組合	57	金沢市農業協同組合
12	株式会社花兄園	58	かなもと青果株式会社
13	かづの農業協同組合	59	有限会社北浦軍鶏農場
14	北いぶき農業協同組合	60	峡南鶏友会
15	黒田ファームグループ	61	有限会社ギルド
16	有限会社ゴールド農園	62	有限会社黒富士農場
17	小清水町農業協同組合・健土塾	63	農事組合法人グットファーム
18	こまち農業協同組合	64	久望農園
19	士別市多寄有機農業研究会	65	くらぶち草の会
20	農事組合法人土別農園	66	ビーエム自然塾 有限会社謙信の郷
21	農事組合法人庄内協同ファーム	67	農事組合法人埼玉県産直協同
22	庄内たがわ農業協同組合	68	佐久浅間農業協同組合
23	新みやぎ農業協同組合	69	佐久ゆうきの会
24	津軽みらい農業協同組合	70	佐渡農業協同組合
25	合同会社天童果実同志会	71	農事組合法人佐原農産物供給センター
26	常盤村養鶏農業協同組合/農事組合法人八峰園	72	有限会社サンドファーム旭
27	ノーザンびーふ産直協議会	73	サン・ファーム
28	有限会社花咲農園	74	三里塚農法の会
29	花巻農業協同組合	75	澁谷養鶏農場
30	ふくしま未来農業協同組合	76	株式会社JAしみずサービス
31	有限会社富良野青果センター	77	首都圏とんトン協議会
32	ポーランドグループ	78	有限会社ジョイファーム小田原
33	までっこチキン生産者連絡協議会	79	常総センター
34	株式会社丸公	80	常総ひかり農業協同組合産直研究会
35	みちのく野菜倶楽部	81	特定非営利活動法人食農ネットささかみ
36	山形おきたま農業協同組合	82	ゼスプリ インターナショナル・ジャパン株式会社
37	山形コープ豚産直協議会	83	農事組合法人村悟空
38	株式会社米沢郷牧場	84	株式会社第一清瀬出荷組合
		85	株式会社ちば風土の会
		86	ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部
		87	有限会社ちば緑耕舎
		88	つくば市谷田部農業協同組合産直部会
		89	有限会社寺島農場
		90	東光寺生協葡萄協力会
		91	有限会社栃木元気会
		92	とちのみ会
		93	有限会社トップリバー
		94	利根川生産者グループ
関東・中部ブロック			
39	青木農園		
40	株式会社アグリイノベーションズカンパニー		
41	有限会社匠瑤ジーピーセンター		
42	あじたま販売株式会社		
43	有限会社アップルファームさみず		
44	有倉きのご園		
45	アルプス農業協同組合		
46	五十嵐菌茸株式会社		

関東・中部ブロック	
95	株式会社ナカショクミートフーズ
96	有限会社中山食茸
97	株式会社菜の花エッグ
98	新潟かがやき農業協同組合
99	株式会社ニッコー
100	有限会社日本の稲作を守る会
101	有限会社白州森と水の里センター
102	株式会社花園たまや
103	農事組合法人葉菜野果産直
104	バンラート農業協同組合
105	株式会社ファーマン
106	フォレスト・ファーム
107	有限会社フレンズファーム
108	ホクレン農業協同組合連合会
109	マルハニチロ株式会社
110	三浦半島EM研究会
111	農事組合法人御坂うまいもの会
112	南伊豆太陽苑生産者グループ
113	南埼玉産直ネットワーク
114	みなみ魚沼農業協同組合
115	ももっこファーム山梨
116	株式会社野菜くらぶ
117	やさと農業協同組合
118	株式会社八街産直会
119	農事組合法人八千代産直
120	やはた会
121	有限会社山口養豚場
122	有機栽培あゆみの会
123	有限会社沃土会
124	農事組合法人郷園

関西・以西ブロック	
125	イシハラフーズ株式会社
126	うまか有機銘茶会
127	株式会社沖縄物産企業連合
128	おても会
129	鹿児島くみあい食品株式会社
130	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社
131	かごしま有機生産組合
132	紀南農業協同組合田辺印の会
133	紀ノ川農業協同組合
134	有限会社九州青果物流通センター
135	有限会社草枕グループ
136	有限会社高生連
137	高知県農業協同組合
138	株式会社さかもとふる一つ
139	株式会社ささ當農
140	さんまる柑橘同志会
141	佐藤農場株式会社
142	有限会社島原自然塾
143	農事組合法人しもつコープファーム

関西・以西ブロック	
144	神内ファーム二十一株式会社すずき牧場
145	有限会社大紀コープファーム
146	農事組合法人たいよう農園
147	たじま農業協同組合
148	株式会社社長有研
149	株式会社鳥越ネットワーク
150	農事組合法人ながさき南部生産組合
151	有限会社なかむら農園
152	有限会社農民連京都産直センター
153	西宇和果実出荷組合
154	西日本有機農業生産協同組合
155	広島県果実農業協同組合連合会
156	福岡八女農業協同組合
157	株式会社フレッシュダイレクト
158	有限会社真南風
159	有限会社マルハ園芸
160	株式会社マルタ
161	水保・不知火ネットワーク
162	株式会社地域法人無茶々園
163	有限会社やさか共同農場
164	一般財団法人夢産地とさやま開発公社
165	有限会社ゆらぎふぁーむ
賛助会員	
166	えりも漁業協同組合
167	大隅地区養まん漁業協同組合
168	恩納村漁業協同組合
169	有限会社カネモ
170	釧路市漁業協同組合
171	富栄海運有限会社唐津営業所シーボーン昭徳
172	全国漁業協同組合連合会
173	長崎県漁業協同組合連合会
174	野付漁業協同組合
175	北海道漁業協同組合連合会
パルシステムグループ	
176	生活協同組合パルシステム東京
177	生活協同組合パルシステム神奈川
178	生活協同組合パルシステム千葉
179	生活協同組合パルシステム埼玉
180	生活協同組合パルシステム茨城 栃木
181	生活協同組合パルシステム山梨
182	生活協同組合パルシステム群馬
183	生活協同組合パルシステム福島
184	生活協同組合パルシステム静岡
185	パルシステム生活協同組合連合会
186	株式会社パル・ミート

■会員数（2023年3月1日時点）

東北・北海道ブロック	38会員
関東・中部ブロック	86会員
関西・以西ブロック	41会員
賛助会員	10会員
パルシステムグループ	11会員
合計	186会員





パルシステム生産者・消費者協議会